



議事要旨	作成日	担当
	2019 . 3. 25	南海電気鉄道株式会社 島津直生
<p>次に、管理運営主体からの出席者をご紹介します。</p> <p>南海電気鉄道株式会社 営業推進室なんば・まち創造部の和田部長です。脇田課長です。酒井課長補佐です。竹田課長補佐です。島津さんです。</p> <p>最後に、事務局 大阪市建設局下水道河川部河川課の出席者をご紹介します。</p> <p>河川課長の上田です。私、課長代理の青山です。担当係長の松岡係長です。吉矢係長です。植田係員です。</p> <p>それでは、ここからの進行は座長にお願いしたいと思います。加藤先生よろしくお願ひします。</p>		
<p><b>3. 議事口</b></p> <p>それでは、議事に従いまして早速進めて参りたいと思いますが、まず、前回の振り返りとして、「前回検討会（平成30年3月2日）」について、事務局より説明をお願いします。</p>		加藤座長
<p><b>(1) 振り返り口</b></p> <p>◆<b>前回検討会（平成30年3月2日）について（資料－1）</b></p> <p>資料-1 第6回道頓堀川水辺空間利用検討会議事要旨を説明します。4ページをご覧ください。</p> <p>前回の検討会は、本日と同じくこちらのパークスタワー会議室で開催いたしました。</p> <p>議事につきましては、まず振り返りとして「平成29年7月開催の第5回道頓堀川水辺空間利用検討会」でご議論いただいた内容、また平成29年10月に臨時開催として持ち回りにてご説明させていただいた内容についてご報告いたしました。</p> <p>次に報告事項として、管理運営事業者である南海電鉄様より1点、事務局より1点のご報告を行っております。</p> <p>南海電鉄様からは第Ⅱ期の平成27年から29年の管理運営事業についてご報告いただきました。これに対し、委員の皆様より音楽イベントでの音量の課題から今後の賑わいづくりにおける質的な課題に関するご意見、戎橋・太左衛門橋間にとどまらない東西の人の流れを生む取り組み等についてご助言を頂戴いたしました。</p> <p>事務局からの報告事項としては、平成30年度の管理運営として南海電鉄様に当初予定より1年延長した平成30年度も管理運営を行っていただきたく考えていること、また平成31年度からの新たな管理運営に向けたマーケットサウンディングを実施していることについてご報告いたしました。これに関して委員の皆様より今後の大阪の情勢を踏まえ、今後どのような賑わいを創出するか考えていく必要があるのではないかとのご意見も頂戴しました。なお、このマーケットサウンディングの結果につきましては、平成30年5月に各委員への持ち回りによりご報告させていただいた際の資料を6～7ページの別紙1として添付させていただいておりますので参照ください。</p> <p>次に検討事項として事務局より3点ご提案させていただきました。</p> <p>1点目は湊町右岸側遊歩道下段部を利用したオープンカフェ営業を試行的に実施するについて。こちらについては昨年の夏場を中心に利用を実施して多くの方にご利用いただき好評であったと聞いております。沿川店舗側も引き続き利用の意欲を示している状況であり、平成31年度についても引き続き実施されることを見込めますので、今後もこのオープンカフェ実施による効果と課題を蓄積させてルール化を行って参りたいと考えております。2点目は、新たな取り組みの積極的な実施についてのご提案です。平成30年度においては今回説明した湊町でのオープンカフェ下段部利用が該当します。今後も南海電鉄様との連携により、さらなる賑わいに繋がる積極的な取り組みを進めて参りたいと考えております。3点目は、オープンカフェでのテント設置に係る検討についてを皆様のご意見をうかがいました。委員の皆様からは景観面や安全面なども含めた方向性について十分に検討すべきではないかとのご指摘をいただいております。このテーマにつきまして引き続き課題や効果等を精査しながら慎重に検討を行って参りたいと考えております。前回の検討会での振り返りは以上ですが、この場をお借りしてご報告させていただきます。</p> <p>資料8ページの別紙2、「道頓堀川船着き場のネーミングライツパートナー企業募集について」をご覧ください。こちらは平成29年2月開催の第4回道頓堀川船着き場3ヶ所を対象に企業名や商品名などを含む船着き場の通称名を定め、また名称の表示することなどを認めるという内容でございます。本市としましては、これまでに歩道橋やスタジアム、ホール等でネーミングライツの実績がございますが、河川管理施設につきましてはこの道頓堀川船着き場3ヶ所が初めての取り組みとなります。募集につきましては平成30年12月17日から平成31年1月25日にかけて行い、募集時に定めた最低契約料以上の入札により企業を決定することといたしました。入札については平成31年1月31日に実施いたしました。日本橋船着き場については応募者はなし、太左衛門橋船着き場と湊町船着き場についてはそれぞれ1社から応募があったものの最低契約料を上回る提案がなく、価格不調により落札者がなしという結果でありました。大阪市としましては船着き場の認知度向上に繋がる取り組みのひとつであると考えておりますので、多くの事業者様に関心を持っていただき応募いただけるよう条件等について再度精査を行い、平成31年度中に改めて公募を実施する予定で考えております。</p> <p>事務局からは以上です。</p> <p>ただいま前回の振り返りに関しまして、1点情報提供としてネーミングライツが不調であったとの話でした。何かご質問などありましたらどうぞ。ネーミングライツは、また行うということで体制を整えてということで期待できるということですね。</p>		事務局 河川課 松岡
<p>課題整理を行ったうえで再チャレンジをしたいと思いますと考えております。</p>		加藤座長
<p>振り返りに関しまして、ご質問等がないようであれば、次に報告事項3点ございますけれども、まず1点目の「第Ⅱ期の管理運営状況について」をお願いします。</p>		事務局 河川課 松岡  加藤座長
<p><b>(2) 報告事項口</b></p> <p>◆<b>「第Ⅱ期(平成27年度～30年度)」の管理運営状況について（資料－2）</b></p> <p>ご報告の前に少しご挨拶させていただきます。南海電鉄の和田です。いつもお世話になっておましてありがとうございます。</p> <p>おかげ様で非常に手前味噌なんです、このチームがしっかりやらせていただいたこともありまして、受託以後ここまで順調にやらせていただいたのかと思います。これもひとえに、この場にいらっしゃる皆様、行政の皆様、加藤先生をはじめ先生方のご支援のたまものと感謝いたしております。本当にありがとうございます。</p> <p>南海電鉄の方なんです、実は今年2018年から2020年度まで中期経営計画を立てておまして、それが「共創136」という計画でございます。単体ではなかなかこの時代やっていけないという中で、皆様と一緒に取り組んで、コ・クリエーションの共創と、片方に数字が入る計画というのは、このごろの中期経営計画ではずっとでございます、今回の136というのは皆様ご存知のとおり、私鉄の中で一番古い会社でございます、2020年に136周年を迎えるということで、3年間の中長期経営計画の最終年度の数字を入れて歴史を重んじてしっかりやっという意思を表示しております。その中で基本方針を5つ掲げております。ひとつは安全安心のサービスを皆様に提供するという事なんです、二つ目になんばの街づくりを掲げています。このなんばの街づくりに関しましては、なんばスカイオがオープンしました。インバウンドの方々がたくさん来られているということで、大阪・なんばが変わってくるということと、新今宮のあたりに星野リゾートさんができますのでこの辺りをミナミに引っ張ってくるということで「グレーターなんば」を作っていくという話にしています。ではグレーターなんばの位置付けとして、どこを範囲にするかとしたときに、北側は「道頓堀」ここをしっかりと押さえることと、東側が堺筋、西側が四ツ橋筋、この東西の点をずっと南の方に下してきた新今宮まで、このエリアを「グレーターなんば」と位置付けまして、この三年間ここでは積極的に我々もやっていきますし、団体や事業者の皆様とも一緒させていただくということも、ともに力を入れていくということもグレーターなんばの1つです。そういった意味でも、道頓堀をしっかりやっていくということが、また冗談っぽくはなりますが、「南海難波城」というお城を守るためにも北からの侵略者を防ぐ意味でも、ここをお濠に見立てて、今度は北側へ攻め上げていくという思いでしっかりやっていきたいと思います。</p> <p>なにわ筋線が、2031年の春にできます。北陸の新幹線とも繋がっているという部分と、裏返すとなんばが通過駅になってしまうんじゃないかというリスクの部分もございまして、なんばをしっかりと創っていくことによって、たくさんの方が来ていただけることをやっていくことと、さらに新今宮あたりから、なにわ筋線が分岐していきますので、新今宮のところもしっかり創っていくということかなと思っています。内々の話でいきますと、次年度以降の10年間という長い期間の管理運営事業者募集が公募されたとき、我々の社内でもかなり議論がございました、それだけのリスクをとれるかという話とか、それをやっていくという思いで南海として本当にどうなのかという確認の質問が矢のように飛んでまいりました。担当者らが上層部へプレゼンテーションを行い、それではしっかりやれということを書いてもらえまして、結果、今後も継続して受託させていただくことになりました。</p> <p>世界イベントがG20をはじめ、次々と行われます。たくさん外国の方にも来られることになるでしょうし、そこをまず、安全で清潔な場所にする。ご要望をしっかり受け止めまして、我々ができることも提案してこの10年間をしっかりとやらせていただきたいと思っておりますので、今後と</p>		管理運営事業者 南海電鉄 和田
<p>それでは第Ⅱ期のご説明をさせていただきます。第Ⅱ期平成27年度から30年度と先ほどお話がありましたけれども、松岡係長からお話がありました通り、前回の検討会の中で平成27年度から29年度の当初の三年間につきましては状況については既に報告させていただいたところがありますので、引き続きの平成30年度（2018年度）の管理運営状況につきましてご説明させていただきたいと思ひます。9ページに目次を掲載させていただいております。まず一点目といたしまして「2018年度の振り返り」、それから「賑わい創出について」のご説明、「南海電鉄の取り組みについて」、「現場管理について」、最後に収支について説明させていただきます。</p> <p>10ページ目をご覧ください。2018年度を振り返ってというところで、2018年度は大阪府北部地震や豪雨、台風等災害の年であったかと言えらると思ひます。特に9月に発生しました、台風21号で関西空港、あるいは空港連絡橋に被害に伴って来阪の訪日旅行者が激減したという状況が発生いたしました。とんぼりリバーウォークにつきましても1週間ほど閑散とした状況が続きました。写真を掲載させていただいておりますのが、「太左衛門橋」こちらの近接ビルからの看板の落下による影響がこのような形になりました。ただ1週間ほどは閑散としましたがそれ以降は徐々に復活いたしまして賑わいと取り戻すという状況でございます。本年につきましては、それ以外にも2025年の万博誘致に向けてのPRであるとか様々な取り組みをさせていただいた結果、賑わいを取り戻すというところに繋がったかなと思ひます。それから再年度以降につきましては</p>		管理運営事業者 南海電鉄 竹田

議事要旨	作成日 2019 . 3. 25	担当 南海電気鉄道株式会社 島津直生
<p>G20、ラグビーワールドカップ等々、様々な国際的なイベントが控えているところがございますので、さらにアピールを強めてまいりたいと考えているところがございます。</p> <p>11ページのところでございます2点目としまして賑わい創出業務についてご説明させていただきます。</p> <p>とんぼりリバーウォークの管理運営については、2018年度からイベント料金の改定を行いました。料金については11ページ下段の資格囲いに記してある通りでございます。こちらの内容をご参照ください。表1のところをご覧ください。表1にイベントの実施状況を平成21年度の第一期の開始時から直近の2018年年度見込みの数値も入っておりますが、最新の数字をいれてあります。イベントの実施件数、ロケーション、それからオープンカフェの契約店舗数、それぞれ過去最高の数字を出しております。特にロケーション撮影につきましては過去最高であった平成28年（2016年度）の31件から大幅に増加するという傾向で47件のお申込み受付をさせていただいております。</p> <p>続きまして12ページをご覧ください。12ページつきましてはイベントに関しまして掲載させていただいております。写真にありますとおり、様々なイベントを開催させていただいております。こちらにつきましてはオープンカフェの店舗の増加に伴ってスペースが限られる中、イベントの開催を調整させていただきながら実施させていただきまして、左下のグラフをご覧ください。こちらは2012年度からの比較を掲載させていただいております。徐々に件数を伸ばしてきて2018年度は過去最高の件数となっております。棒グラフは合計件数の数字でございまして、折れ線グラフの赤い線が休日、青い線が平日の件数でございまして2015年度に平日と休日が逆転しております。</p> <p>13ページをご覧ください。ロケーション撮影でございます。ロケーション撮影につきましては、前回の当検討会でもご報告させていただきましたが増加傾向でございます。特に全国ネットのテレビの放送やCMなどが増えたということでそちらが放映されることによってとんぼりリバーウォークのPRあるいはロケーションそのもののPRに繋がったということで、前回の報告の時点でもかなり増えてきてはあったんですけども、それに加えて2018年度につきましては情報誌の撮影、あるいはテレビの生中継が多く実施されたことで、さらにとんぼりリバーウォークのPRに繋がったという形になっております。真ん中にグラフを載せております。こちらは2018年度の件数、47件最高になる見込みでございます。</p> <p>14ページをご覧ください。オープンカフェの状況についてご説明させていただきます。オープンカフェにつきましては左下表2のところ、オープンカフェの月別の契約店舗件数を掲載させていただいております。こちら2012年度からの比較の数字を挙げておりますが、一番右側が2018年度直近の数字、最高で44件、2012年度が8件ということでしたので、かなりの契約店舗数という形になっております。右側15ページにオープンカフェ店舗様の場所、お名前を掲載させていただいておりますのでご参照ください。</p> <p>続きまして16ページ、独立型店舗でございます。湊町エリアで実施いただいておりますパーベキューテラスでございます。冒頭で触れました台風21号の影響が今年の場合はございまして、かなりの風雨の影響を受けまして、ほんらの期間より早めに店舗を閉めざるを得なかったという状況でございました。湊町エリア以外では大黒橋エリアでも一昨年まで実施いただいていたのですが、スタッフの人員確保が難しいということで本年は見送られました。</p> <p>続きまして17ページから南海の取り組みについて掲載させていただいております。弊社南海電鉄の取り組みといたしまして掲載させて伊t抱いておりますのが、地元小学校に協力いただきまして校外授業の一環としまして植栽を実施いただいております。プランター10基への花の植え替え授業を5月には高津小学校、10月には難波元町小学校にそれぞれ実施いただいております。18ページをご覧ください。同じく小学校の校外授業というかたちで、写生授業を行っていただいております。写真にあるとおり6月に現地で開催いただき、その作品につきましては8月からとんぼりリバーウォーク上に掲出させていただいております。こちらは掲出後、遊歩道を行き交う人も足を止めて作品に見入るという状況が見られました。19ページは7月に開催いたしました「とんぼら」というイベントでございます。南海電鉄主催のイベントでございます。今年は大阪検定のPR、ミナミで活躍するアイドル、泉大津市のPRなどいろいろな魅力を盛り込んで実施させていただきました。特に大阪検定のPRでは、問題をリバーウォーク上に掲出し、その問題に答えていただくクイズラリーを実施させていただき、東西の回遊に繋げさせていただいたところでございます。</p> <p>続きまして20ページには冬場の賑わいづくりということでイルミネーションを東西回遊を目的として実施させていただいておりますが、今年にしましては特に西側、大黒橋エリアに重点をおきまして、大黒橋のライトアップ、フォトスポットの設置等々させていただきました。こちらに設置したことで、大黒橋付近が明るく照らされ防犯面に、人が多く集まりゴミの散乱防止ができ、美化にも大きく寄与できたかと思っております。21ページにはイルミネーションの設置場所を掲載させていただいております。</p> <p>続きまして22ページでございます。こちら新たな取り組みとしまして、ウォーキングアプリとのコラボを実施させていただきました。こちらは映画PRキャンペーンの一環でスマートフォンのアプリとGPS機能を利用しましたウォーキングキャンペーンで、リバーウォークの東西回遊に繋がったということもございます。参加者総数は1040名でございます。その下にはリバーウォークのマップの掲示というものをさせていただきました。もともとリバーウォーク上には案内物としてマップはございますが、大きく掲示することで自分の居場所が分かりやすく、また多言語で表示することで昨今増え続けておりますインバウンドのお客さまにも案内しやすくなっているかなと思っております。こちらにつきましては、今後も利用状況を見ながらリニューアルさせていただければと考えているところでございます。</p> <p>続きまして23ページ広告事業でございます。こちらにつきましては戎橋の袂にロングボードという大きな広告枠がございます。今年にしましてはこちらの広告枠を活用させていただきました。大阪万博のPRをさせていただきます。2018年3月から11月下旬までこちらを掲出させていただきます。まして、広告収入には繋がらなかったんですけどもPRには大きく協力させていただけたかなと思っております。その他としましてはホームページ、フェイスブックでの情報発信も引き続き行っております。</p> <p>24ページをご覧ください。現場管理というかたちで警備、清掃、イベント管理について実施させていただいております。こちらにつきましては防犯カメラでの監視活動と合わせ、遊歩道の事故トラブルの未然防止、安全確保、それから清掃業務を合わせて実施させていただいております。24時間体制での活動を行っておりまして、定期的な研修、これは警備員だけでなく、清掃員にも研修を行っておりまして業務能力の向上、安全の確保に努めております。</p> <p>最後になりましたが終始状況でございます。収入につきましてはグラフが3つございまして左上のグラフをご覧ください。一番上の折れ線グラフにつきましては収入の合計数値でございまして、真ん中の青いラインが大阪市様からいただいております受託料収入でございます。一番下のオレンジのラインがみなさまからいただいているイベント等々の利用料の合計数値でございます。一番最初右側に2018年度直近の数字が出ておりますけれども、開始当初は受託料に大きく依存する形ではありましたが、この直近の数字をご覧ください。右側の割合をご覧ください。受託料の利用料が全体に占める割合でございます。最初は大きく受託料に依存していたものが、2018年には半分半分に近い数値まで盛り返してきたというところでございます。25ページが収支の状況でございます。右側赤く囲っているところが2018年度直近の数値でございます。営業損益が右下のところに書いてありますけれども費用を全て差し引いた状態の営業損益が200万強の黒字の予定でございます。次の26ページに大きく横長の表を付けております。こちらの一番下のところに2018年度見込みの数字を書いております。この一番下の表をごらんいただければお分かりの通り、2012年度からの比較が続いております。2016年度まで赤字が続いており、2017、2018年のこの2年でなんとか黒字に転じたというところでございまして引き続き努力をしていく所存でございます。27ページをご覧ください。27ページには我々が受託させていただいた前の2011年度と数値が確定している2017年度の比較を記載させていただいております。イベントに関しましては4.4倍、歩行者数も4.2倍、オープンカフェの出店数が7.6倍という数字になっております。さきほどもお話しさせていただいたとおり、直近の2018年度はさらに増加することが確定しておりますので、この倍率もさらに上がるというところでございます。この下の表にはこれまでの成果としまして写真も掲載させていただいておりますけれども、警備業務、清掃業務の、清掃業務には特に地域の方と共同での自主清掃も継続的に実施させていただいております。27年度から3か年は以前に誤報隠させていただいたところですが、その場で報告の締めくくりとしまして、30年度につきまして延長契約は決まっておったのですが、単なる延長契約ではなく、さらなる賑わい創りに邁進していくという宣言をさせていただいております。それは先ほどお話しさせていただいた30年度の数字につながっているかなというところでございます。</p> <p>28ページからはイベントの参考資料を掲載させていただいております。28から32ページが伝統行事あるいは行政さま、地域さまの主催イベントを掲載させていただいております。その他につきましても33ページから以降に地域の方々以外の一般の団体様、それから店舗様のイベントを掲載させていただいております。35ページにつきましては船舶を利用したPRイベントの一例を掲載させていただいております。本年は先ほどお話しさせていただいた通り、実績に繋がったわけではございませんけれども、これもひとえにこの場にいらっしゃるご代表の方々のご協力ご指導の賜物かと思っております。</p>	<p>ありがとうございます。ただいま非常に耳障りの良い報告をいただきまして大変うれしく思いますが、ただいまの報告のなかで何かご質問、ご意見ございましたらどこからでも結構でございます。</p> <p>イベントやら収支やら、手際よくまとめていただいている統計的にきれいに整理していただいていると思っております。</p>	<p>加藤座長</p>
<p>それでは、豊島の方から口火を切らせていただきます。</p> <p>全体を総括して「すばらしいな」とここ数年といえますか毎回報告をいただくたびに「すごい、すごい」という気持ちでですね、この感動の気持ちをどう表せばいいんだろうと、なかなか難しいなと思うぐらい皆様の努力がこの形になって、そして数字になってあらわれているなというふうに感動しております。特にですね、11ページのイベントの実施状況、イベントだけではないんですけど、第1期から最後2018年、数字が全然違いますもんね。最初の頃は記憶しておりますが、なかなかイベント数字が伸びないということで、この先どうなるんだと思った時期もあったのですが、2015年くらいから南海電鉄様のチームの力が結集されてですね、もちろん部長様のリーダーシップに基づくものだと思いますが、すごく飛躍的な伸びがある、そしてそもそもこの報告書が全然違うという、第1回の時は本当に色もなく資料内容としても全然違うし、発表の仕方も違う、結果も違うということで、毎回毎回、安心して、感動しながら報告を聞かせていただいております。細かいところを言い出すとキリがないと思いますが、たとえば27ページのアンケート調査とかはですね、調査を実際にやっていたということ、なかなか手間がかかることでございまして、この報告書に表れていない地道な努力、イベントとかカフェの件もですね、以前に一戸一戸営業に回られて説得されてそしてご契約いただくということを報告いただいたことを記憶しておるんですが、それでこの数字はすごいなと、数字だけでなく、その背景にここまでたどり着いた皆様方の努力、地道な尽力がここにむすびついているのだとということにあらためて感謝申し上げたいと思っております。</p> <p>で、質問なのですが、12ページの、先ほどご報告いただいたのですが、右下の月別イベント件数の推移というところで、2018年度に夏のイベント数と冬のイベント数が逆転したという風にご報告いただきましたか。そういう理解でよろしいでしょうか？</p> <p>従前、冬はイベント数が少ないので、なんとかしないといけないというテーマがあったかと思うのですが、この逆転がなぜおこったのかと、さきほどすごくびっくりしてございまして、そのへんご説明いただければと思います。</p>	<p>いろいろ、お褒めを頂戴しましてありがとうございます。</p>	<p>豊島委員</p> <p>管理運営事業者</p>

議事要旨	作成日	担当
	2019 . 3. 25	南海電気鉄道株式会社 島津直生
<p>先ほどのご質問につきまして、今回の冬季につきましては、結論から申し上げますが、イレギュラーな状態になっております。一番大きく寄与したのが、34ページの(ハ)のところに写真を掲載させていただいていますが、湊町のオープンカフェをご利用いただいている店舗様と自動車ディーラーさんのタイアップされ日々違ったイベントを繰り広げられたといったことがございましたので、その関係でちょっとイレギュラーという形の数値にはなっております。ただ冬季につきましても以前よりも安定的な底上げにはなっておりますので、増えてはいるんですけども、夏と冬の逆転現象というところまでは至らないかなというところではございます。</p> <p>ありがとうございます。 冬であっても可能性があるということが理解できたのかなと思います。ますます期待したいなと思います。</p> <p>あらためまして、今日報告いただきましてありがとうございます。 全体としては先ほど豊島先生がおっしゃったことと似てまして、ものすごく頑張っている感じがするので、あれこれ言うような状況ではないんじゃないかなと私も同様に感じているところではございます。その上でですね、2点気になっていることがありまして、27ページのアンケート結果ですね「清潔感」の方なんですけれども、なんとなく歩かせてもらっていて、もっと良い調査結果がでていいんじゃないかなという風に感じています。掃除もものすごく頑張っている状況も拝見させていただいてますし、思ったよりもアンケートが低かったとイメージが私の方であって、一方で、この結果が出て対外的にもう少しやってるんだというアピールがなされていても良いのかなというふうには感じています。実際にはすごく良い方向になっているにもかかわらず、思ったよりも数字が伸びていないという、現場として「もっと良くてもいいのに」という思いもおありだと思いますので、そこが気になったというのが1点。 後ほどご報告があると思うのですが、今後のことですが、ここまで賑わいを創出されてこれらいろいろな取り組みをされて来られて、一方さきほど南海電鉄さんとして「グレーターなんば」という考えのもと、いろんなところで賑わいを創出していくということで、道頓堀の取り組みと他の取り組みとの違いをどうつけていかれるのかというところが少し気になっている点ではございます。 全体としては資料からも、実際のところからもいい方向だなというふうには思っております。私からは以上です。</p> <p>アンケートをとる日、取る場所によって違うんですけども、その時たまたまゴミがその場所だけ散らかっていたりするとどうしても汚いというイメージがついてしまったり、普段から夜間帯は掃除が入っていませんので、そういったところを見ておられる方が印象に残っておられて、そういう風にお答えになっておられる方中にはいらっしゃるようだと聞いております。これはなかなか難しいところではあるんですけども、もっと綺麗に、安全・安心に楽しみたい空間になるように努めてまいりたいと考えております。</p> <p>アンケートする時間帯にもよるんでしょうね。ありがとうございます。</p> <p>今回のご報告、本当に素晴らしいなという一言なんですけれども、気にしていた利用料金の引き上げをしたことで利用者数が減るんじゃないかというところも実際には減らなかったということで、これはひとえにこれまで南海さんが実績を積んでこられた中で道頓堀のブランド力が非常に上がった結果かなというふうには思います。もしもっと早い段階で値段を上げていたら利用者数が減っていたかもしれないんですけど、実績を積んでこられて、「これはいける」という手堅い読みのなかで、今後もそれが収益拡大に繋がっていくかと思っておりますので、それは非常に良かったなと思っております。 以前から気になっていたんですけど、ホームページと、フェイスブックのアクセス数がどちらの方が多いかということがわからないんですけど、ホームページには今の収益基盤となっているオープンカフェに関してどういったお店があるかという情報が分かりにくいなと思ひまして、今は商店街のホームページのリンクが貼られているのですが、私が友達にオープンカフェとかどういったお店があるか教える時にそういった情報があれば非常にありがたいなと思うのですが、フェイスブックの方にこれは載っているんですか？そのへんの工夫などどのように考えているのか聞かせて</p> <p>オープンカフェの店舗様につきましては、今までは、安定してずっとご契約いただけるところと入れ替わりが激しく定着していないお店がありまして、なかなか紹介しづらい状況であったのですが、次年度以降いろいろな取り組みの一つとして、オープンカフェの紹介をチラシやサイトでする方向で検討しております。</p> <p>お店にとっても宣伝効果があると思います。それで利用しただけの方が増えたらいいなと思います。わかりました。ありがとうございます。</p> <p>沿線のコミュニティの方、その他ご質問ございませんでしょうか？</p> <p>南海さんもいつもこの少ないメンバーですごく頑張っておられて、非常に頭が下がる思いでございます。 PRの部分ですけれども、フリーペーパーN A T T Sに何をしているかという情報を掲載してほしいです。あの情報誌は非常に良いので自己アピールに使用してほしいです。 今後もっと海外の人が来ますので、10年後、20年後が非常に楽しみです。御堂筋、なにわ筋線などのシナジー効果もあって楽しみです。</p> <p>清潔感のところという通行量が増えと、どうしてもゴミが増えてきます。通行量にあわせた清掃の強化も必要だと思います。 去年から取り組んでいただいている、中心部からはなれた西側、東側へのイベント誘致などで東西の回遊性を高めていただいて、引き続きご支援賜ればと思います。</p> <p>概ね2018年度までの報告に関しまして、未来に関するご意見が多かったのですが、あと二つ報告を用意しております。第Ⅲ期に関する事項のところ、お話いただければと思います。 それでは、道頓堀川水辺空間利用にかかる管理運営事業者募集（第Ⅲ期）についての報告をよろしくお願いいたします。</p>	<p>南海電鉄 酒井</p> <p>豊島委員</p> <p>杉山委員</p> <p>管理運営事業者 南海電鉄 酒井</p> <p>加藤座長</p> <p>吉田委員</p> <p>管理運営事業者 南海電鉄 酒井</p> <p>吉田委員</p> <p>加藤座長</p> <p>高橋委員</p> <p>高井委員</p> <p>加藤座長</p>	
<p>◆「第Ⅲ期 管理運営事業者募集」について（資料-3）</p> <p>それでは、事務局より第Ⅲ期管理運営事業者募集の経過についてご説明いたします。</p> <p>36ページ資料3をご覧ください。道頓堀川の水辺空間に関しましては、平成17年度から社会実験を経て平成24年度からこれまでⅡ期に渡って公募により選定された南海電鉄様に管理運営をしていただいていたところでございます。その結果、さきほどご報告いただきました通り、イベントであったりオープンカフェであったり賑わいの大幅な増加により、遊歩道が多くの方に楽しんでいただける場としていただけているところでございます。 一方で、賑わいの局所化であったり、音楽イベントの音量問題、オープンフェ等での不適正な利用などが見受けられることもあるところでございます。平成31年度からの第Ⅲ期事業においては、これまでの実績と課題をマーケットサウンディングの結果も踏まえて、水辺空間のさらなる魅力の充実、ブランド力の向上を目指して事業者募集を実施いたしました。募集においては、地域の皆様や沿線店舗との信頼関係を構築しながら継続的、安定的に取り組んでいただけることを期待しましてこれまでは事業期間3年であったのですが、今回は10年間の事業期間ということで設定をいたしました。募集につきましては平成30年の8月20日より開始いたしまして机上説明あるいは質問を受け回答といった手続きを経て、10月25日から10月31日まで応募受付を行いました。その結果、期間内に2社より応募をいただいたことから書面ヒアリングの手続きも経まして、応募書類とヒアリングに対する回答を踏まえて提案内容の審査を行ってまいりました。選定におきましては外部有識者により構成する選定委員会を立ち上げ、選定委員会にはこの水辺空間利用検討会にもご参加いただいております、加藤先生、杉山先生、豊島先生、吉田先生にご就任いただきまして評価を行っていただきました。 審査にあたりましては公平性を確保するため事業者名を伏せて提案内容を確認いただいて基準に基づいた採点を行ったものであり、審査の結果、南海電鉄様が第Ⅲ期事業者として選定されたという結果になります。審査におきましては、地域、沿川店舗との積極的な取り組みでありますとか提案内容がバランスよく記述されていること、また賑わいについてさらに期待ができるということ、また法人としての安定性が期待できることなどが高く評価されたものであります。簡単になりましたが、事務局からは以上です。</p> <p>8ページに審査結果の評価ポイント、主な意見等を並べて記載いただいておりますが、第1位の南海電鉄さんが圧倒的な差で当選されております。 内容につきましては要約を公表いただくこととなりますが、今の事業者募集につきましてご質問はありますか？ 無いというので、それは南海電鉄さんに次期10年を依頼することになりましたが、その基本的な管理運営についてその概要について少しお評</p>	<p>事務局 河川課 上田</p> <p>加藤座長</p>	

議事要旨	作成日	担当
無いようですので、それでは南海電鉄さんに次期10年をお願いすることになりましたが、その基本的な管理運営についてその概要について少しお話しただけです。	2019 . 3. 25	南海電気鉄道株式会社 島津直生
<p>◆「第三期（平成31年度～40年度）」管理運営事業について（資料－4）</p> <p>それでは、第三期の管理運営事業についてのご説明をさせていただきます。資料39ページですけれども、こちらに掲載させていただいている内容、こまごまと書かせていただいているのですけれども全体的に申しますと、道頓堀川の遊歩道を含めて全体の空間につきまして、これまでは賑わいの創出というところに重点を置いてやってきたかなというところですが、今後は募集要項の中にもございましたブランド力の強化というところがありますので、これを実現に向けて弊社が何ができるかということで、この管理運営7年間で積み上げてきた地元の方々や、いろんな関係者の方々との関係性を活用させていただき、今後は実績に繋げていくといった形で、まずは何が出来るかという「きっかけづくり」をするという意味でプロデュースさせていただきたいと思っております。それプラス、人と人、点と点を繋いでいくコーディネートをするということでお役にたてる所かなと思っておりますので、プロデュースとコーディネートという二つのキーワードでブランド力の強化につなげていきたいと考えております。</p> <p>具体的には41ページのところをご覧くださいまして、これはあくまで「賑わいづくり」を想定したものの一部ではございますが、今まではあまり遊歩道上で活用されてこなかった西側エリア、特に湊町エリアではアクティビティを誘致できないかと。せっかく親水性がある場所ですので、昨年からのいろいろな事業者さまと既に調整はさせていただいております。ただ、来年にできるかといいますとそこまでは至っていないんですけれども、できなくはないという感触は得ながら今後行政様、地元様含めてご意見をいただきながら調整して、こういった事を取り組んでみたいかと、まずは思っております。</p> <p>それ以外では、遊歩道上ではライフラインの電気、水道といった設備がございません。何かしようと思っても、まずはこちらで用意してということになります。キッチンカーであれば、そんなところでも賑わいの源泉となるお店さんが出せるといったところを考えております。ただ、遊歩道上では車の乗り入れができません。あるとすれば大黒橋の広いところの一部にキッチンカー、テーブル、椅子などを置いて、こういう場所もあるということをお知らせしたいという意味で、一例として挙げさせていただきました。</p> <p>また西側エリアで続きまして、アート作品の展示についてですが、せっかく落ち着いた空間でございまして、こちらにトリックアートや、アーティスト様の作品を目隠しパネルに並べて掲出したりですとか、若者のSNSの発信力を活用して、来場者、回遊性の増加に繋がらないかと考えております。</p> <p>そもそも論にはなりますが、とんぼりリバーウォークにはとんぼりリバーウォークという表示がされていないということがございます。収益の一部を活用し、ウェルカムゲートのようなものでアピールをしながら誘導、誘引に繋がらないかということも考えております。</p> <p>また、夜間についてですが、今まではイルミネーションを期間限定で実施させていただいております。こういったものを万灯祭の時期を外して、それ以外の期間もお楽しみいただけないかということも考えております。また道頓堀橋下通路も暗いイメージがありますが、そういったところを利用して、例えばブラックライトのようなもので違った空間の演出ができないかということを考えております、あまり背伸びをした提案はできなかったのですが、現実的にこれまでの経験で、できる範囲でやらせていただきながら、またここでやってもいい</p> <p>非常に簡潔にご説明いただきました。ありがとうございます。 第三期の管理運営につきましてもご説明いただきましたが、ここで第三期がはじまるにあたり、先ほどの2018年度までの報告を踏まえてご意見をいただければと思います。</p> <p>宗衛門町商店街の増田でございます。うちの商店街も「食と酒、川があるまち宗右衛門町」ということをキャッチフレーズにまちづくりをやってきました。大阪の街でもミナミは何が魅力があるかといえば川のある町なんです。道頓堀川も昔はカキ船なんか走ってて、汚水など道頓堀川に流していた時代もありました。ソフトの部分もみんなでがんばってきた経緯もあって、ゴミの清掃も我々も月1回清掃しています。心配なのは観光客が来られた時には、川の両サイドに座って水を見る、昔は飛び込んだらバイ菌があるなど言われた時代もあって、水質なんかの検査が良くなっているんじゃないかと思うのですが、水質検査は年に何回かされていしているのですか？</p> <p>川の水質検査につきましては、月1回水質検査を実施しております、ホームページで公表させていただいております。水質ということではいいますと、BODという値があるのですが、これが近年、1以下というかなり綺麗な状態を保っているというところなんです。川の清掃も水面は大阪市で毎日実施しています。上流の東横堀川に関しましても、今年汚泥の浚渫を完了させている状況でございまして、引き続き水質の向上に取り組んでまいりたいというところでございます。</p> <p>昔は合流式下水道で、大雨が降りますと、特に上町台地から汚水交じりの水が東横堀川に流れてきて、それが道頓堀川に流れてきて蓄積するということがあったんですが、なにわ筋の下に「平成の太閤下水」という地下の貯留管が完成してから雨の時に汚水が流れてくということとはほぼ無くなったという状況でございます。かなりの雨が降らないと流れてこないということで、水質は保たれているという状況でございます。</p> <p>その水質改善については、どう情報発信なされているのでしょうか？ また今後どのように発信されるかの展望をお聞かせください。</p> <p>展望ということは難しいですが、2年後くらいには城東区にあります中浜下水処理場というところから、かなり綺麗な高度処理水、透明度の高い処理水を東横堀川に送水するという事業を進めております。これが完成したあきつきには、PRしなければならぬと思っておりますが、一方であまり綺麗にしすぎると飛び込みが増えるのではないかとということも心配なところでございまして、飛び込みをどう抑制していくかということと、綺麗になったことをうまくPRしていきたいと思っております。当面は皆さまにご迷惑をおかけしますが、建設局としましても対策をしていきたいと思っております。</p> <p>送水する水質のレベルはどうなんでしょう？</p> <p>水道水と変わらないくらいのクリアな水になります。大腸菌がゼロの綺麗な水を入れていきたいと思っております。</p>	<p>管理運営事業者 南海電鉄 竹田</p> <p>管理運営事業者 南海電鉄 酒井</p> <p>加藤座長</p> <p>増田委員</p> <p>事務局 河川課 吉矢</p> <p>事務局 河川課 上田</p> <p>杉山委員</p> <p>事務局 河川課 上田</p> <p>加藤座長</p> <p>事務局 河川課 吉矢</p>	<p>南海電気鉄道株式会社 島津直生</p> <p>管理運営事業者 南海電鉄 竹田</p> <p>管理運営事業者 南海電鉄 酒井</p> <p>加藤座長</p> <p>増田委員</p> <p>事務局 河川課 吉矢</p> <p>事務局 河川課 上田</p> <p>杉山委員</p> <p>事務局 河川課 上田</p> <p>加藤座長</p> <p>事務局 河川課 吉矢</p>
<p>道頓堀商店街の上山でございます。本日初めて参加させていただきます。 イベントが増えているということで、南海の担当の方とは、リバーウォークなどで頻りに顔を合わす機会が増えてきました。コミュニケーションをとっていただきながら頑張っていたらいいなというのを思っております。 今後の展開は、2025年万博、IRなどが大阪に来る。先ほどのお話の中でも、来年のワールドカップ、サミットなどで大阪・道頓堀が世界に発信される。そこで我々は、劇的に変わっていかないといけないと感じております。2025年の万博までに今までの道頓堀から劇的に発展しなければならないと思っております。それをするチャンスでもあると思っております。戎橋～太左衛門橋間の店舗も昭和の象徴で良いのですが少しくらい、もう少し観光に来られたお客様が感動するようなまちづくりをしなければならぬと思っております。そのあたりは、まちを挙げてプロデュースしていかねばならないと考えております。官・民連携で道頓堀を賑わせることを考えないといけないと思っております。</p> <p>塩草連合会の加瀬澤です。 湊町でテントを張ってやっておられたと思いますが、風とかいろいろあって大変だったと思いますが、あのエリアは広いエリアですので、有効活用できると思っております。湊町は、うちの町会ですし関心を持って見ております。</p> <p>中央区役所の谷口でございます。特に南海電鉄様とは夏のにぎわいスクエアでお世話になっております。 冒頭、南海の和田部長からもお話があったとおり、南海さんもビジョンをお持ちで、北限が道頓堀、星野リゾートからの引き込み、南海城といったお話もありましたが、日本全体を見ますと、インバウンドのお客さまが増えております。閑空についても台風21号からの復帰をはたしまして、いま大阪に来られる方もほぼ3月には元に戻っておるという状況あるということも大阪観光局から聞いております。ただ、消費の傾向といったことで言いますと、野村総研、三菱UFJ総研さんによりますと、富裕層の方が大阪から地方に関心が移っている傾向にあるということも聞いております。インバウンドの方が来られて増えていると言いながら、負担だけがが増えていて、先ほどのゴミの話もございましたけれども、そう言ったことではなく、これが経済の振興にもつ繋がっていくようなところも必要なのかなと考えております。上山会長からも大阪に先駆けて道頓堀が先に世界的なブランドになりました。アメリカでも根強い人気がございます。こういったブランド力をいかに高めていくかということで、中央区が運営しているオフィシャルサイト・大阪中心で100か国語に対応していますので私共もしっかり発信していきたいと、そういったことを進めてまいりたいと思っております。</p> <p>道頓堀商店街振興組合の高井です。フェイスブックの活用は今でもされていると思いますが、SNSでのタイムリーなイベント情報の発信を多言語で実施していただきたい。最近ミナミをみえていますとSNSでの人の動きがございますので、実施していただきたい。今までの発想にない魅力的な道頓堀を発信していくということをお官民連携でできたらと思っております。</p>	<p>上山委員</p> <p>加瀬澤委員</p> <p>中央区 谷口</p> <p>高井委員</p>	<p>上山委員</p> <p>加瀬澤委員</p> <p>中央区 谷口</p> <p>高井委員</p>

議事要旨	作成日	担当
		2019 . 3. 25
<p>この機会に提案をしたいと思います。</p> <p>1つは、外国の方がたくさん来られています。その情報発信について英語が重要になってくるのかと思います。現在、道頓堀の橋の下に大阪市の今までの歩みであるとか、御堂筋のこととかの興味深い情報を掲出いただいておりますが、あれは残念ながら日本語です。英語なり多言語なりで発信していくことが必要かと思えます。</p> <p>もう1つは、若い人向けに、さきほどイルミネーションの大黒橋のことも報告いただきましたが、若い人たちの「インスタ映え」するスポットをいくつか作って人の流れを作っていくというのも良いではないかと思えます。</p> <p>3つ目はキッチンカーを大黒橋にという話がありましたが、橋の利用がどうなのかということもありますが、相合橋も幅の広い橋です。ああいう橋の上のスペースを使えば集客につながると思えます。</p> <p>4つ目は収益のことですが、少しずつ収益をあげていただいておりますが、利用料を上げて利用者数には影響がなかったということなので、今後も利用料を上げる方策を考えていただくことも必要かと思えます。</p> <p>最後にブランド力の向上に向けて「道頓堀」という名前の駅がないので、海外の方にも道頓堀は行くべき場所として有名ですが、道頓堀駅があったらいいなと思えます。</p>		豊島委員
<p>(3) 検討事項口</p> <p>◆夜間の利用促進の検討について（資料-5）</p> <p>42ページの資料5をご覧ください。まず検討の背景についてご説明いたします。</p> <p>道頓堀川の水辺空間は地域の皆様のご協力や南海電鉄様との連携により、賑わいづくりに取り組んで来ました。その結果、イベントやオープンカフェ等の賑わいに関する件数が大幅に増加しています。</p> <p>一方で、賑わいの局所化の課題の1つとして、夜にもお越しいただくような空間にすることも引き続き対応を検討する必要があると認識しております。</p> <p>また昨年度実施したマーケットサウンディングにおいても夜間の利用促進に関するご意見が寄せられたこともあり、今回の第Ⅲ期事業者募集において夜間も含む恒常的な賑わいを求めたものでありまして、民間事業者のアイデアも求めながら夜間コンテンツの充実を図りたいと思っております。</p> <p>また、昨年度大阪観光局において調査したインバウンド動向調査におきまして、ナイトツアーやナイトクルーズの利用者数の満足度が非常に高い結果となっております。調査結果からも夜の体験の満足度が高いこと、夜の体験の更なる充実が必要であるとの結果が示されておるところです。道頓堀川におきましても外国人観光客に対しての夜間コンテンツの期待は高いものと考えられます。また舟運事業者においてもナイトクルーズに対するニーズが高いと聞いております。そのため河川管理者として対応を考えたいところなのですが、一方で夜間の利用に伴う音の問題への配慮、また水面を航行する場合の船着き場の利用時間、水門の航行時間への対応においても検討が必要であると考えております。</p> <p>今後の夜間コンテンツ充実の方向性として例えば水門の航行可能時間を1時間程度延長して、ナイトクルーズを試行実施することについても検討できればと考えております。また南海電鉄様との連携による遊歩道でのイルミネーションやアートの活用といった取り組みも併せまして、遊歩道全体での恒常的な賑わいへの取り組みへと繋げてまいりたいと考えております。</p> <p>地域の皆様とも連携させていただきながら、ご理解のもと様々な取り組みが実現できるよう課題への対応も図りながら取り組みを検討したいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>事務局からは以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>夜間の利用促進ということで水門の利用可能時間を伸ばし、ナイトクルーズやイルミネーション等の充実をやっていくということでした。今日のご意見をいただくということでもよろしいでしょうか。</p> <p>ご意見を頂戴できればと思います。</p> <p>ナイトクルーズは市場性があるのですか。</p> <p>そうですね。そういったお声を頂戴しております。一方で音の問題に関しては現状でも少し苦情を頂いているというところがあるので、それをどう配慮するのかというところが課題と考えております。</p> <p>24時間都市の住環境というのはなかなか。パッシングするところもありますし、調整を必要とする場合もあります。特に西側エリアはマンションなど住環境に接しているところもありますし、検討しなければなりません。しかし、夜間の利用促進をしていった方がいいという大局的な判断がここに示されているんじゃないかということです。どうしてもこれはいけないということはありますでしょうか。</p> <p>ご意見が無さそうですので、ご了承頂いたと取り扱って頂ければと思います。以上で報告検討事項終わりました。続きまして、最後にその他ということで、事務局よりお願いします。</p>	事務局 河川課 松岡	
<p>(4) 検討事項</p> <p>◆「道頓堀川水辺空間利活用検討会」の設置について（資料-6）</p> <p>それでは、その他の「道頓堀川水辺空間利活用検討会」開催について事務局よりご説明いたします。</p> <p>42ページの資料6をご覧ください。現在ご参加いただいております水辺空間利用検討会は平成27年度からの南海電鉄様の第Ⅱ期管理運営に合わせ設置をしたものです。当初の開催期間は昨年度末までとしておりましたが、第Ⅱ期を1年間延長したことに伴いまして、検討会としても1年間会期を延長してまいりました。当検討会については南海電鉄様の第Ⅱ期管理運営の終了と合わせていったん終了となります。</p> <p>本年4月からは、第Ⅲ期管理運営期間が開始することとなりますので、検討会につきましても「道頓堀川水辺空間利活用検討会」として新たにスタートを切ることとなります。第Ⅲ期の事業期間は10年間としていますが、利活用検討会は3年間としております。こちらの考え方といたしましては、ブランド力の強化を確実に達成するため、管理運営状況について3年ごとに事業評価を行い、官民連携により魅力向上を図っていきたいと考えております。そのため検討会についても、3年を一区切りとして各ステップにおける成果と課題をふまえて次の3年間にいかしていくことを想定しております。地元代表委員の皆様には引き続きご参加いただきご意見を頂戴したいと考えておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p>なお、ご就任にあたりまして承諾書等の書類を提出していただく存じます。書類については後日事務局よりお送りさせていただきますのでお手数ですが書類提出にご協力をお願いいたします。</p> <p>さて、ここで皆様にご報告させていただきたいことがあります。冒頭でも上田から話があったのですが、学識経験者として長年にわたりご尽力いただいた加藤先生におかれましては、本検討会をもちましてご卒業となりました。次期検討会におきまして加藤先生の後任として、大阪市立大学院工学研究科都市計専攻の嘉名光市教授に委員としてご就任いただく予定でございます。嘉名教授は都市計画、都市デザイン、都市再生計画等を専門とされております。また、大阪府の河川水辺の賑わい審議会の委員や大阪市の御堂筋デザイン会議の議員にもご就任いただいているなど、川や水辺を活かしたまちづくりに非常に知見が深い先生でいらっしゃいます。今後は加藤先生と培った道頓堀川水辺空間を新たな体制で高めてまいりたいと思っております。</p> <p>事務局からは以上です。</p> <p>はい、それではその他の議題等終了いたしましたのでお返しいたします。</p>	事務局 河川課 松岡	
<p>4. 閉会</p> <p>只今、担当の者よりご説明した通り加藤先生は本日検討会をもって委員をご勇退されることになりました。事務局、大阪市としては、加藤先生に引き続きご指導賜りたいという強い強い思いを持っているのですが、本市の内部規定もございますのでこの検討会でご退任いただく運びとなった次第です。</p> <p>加藤先生におかれては水辺整備の検討が始まった当初から長きにわたって携わっていただいております。とんぼりリバーウォークの愛称選考などにもお力添えを頂きました。また平成16年の道頓堀川水辺協議会の立ち上げ以来、様々な場でご指導いただいております。本市が道頓堀川で実施してきた様々な事業の実施において加藤先生の豊富な知識や経験を私どもに大変理解しやすいご指導ご助言をしていただき行政として進むべき道を判断する上で大きな力となったところでございます。加藤先生からいただいたたくさんのアドバイスを財産としまして、さらに道頓堀川水辺空間を魅力的な場所とするよう皆で取り組んで参りたいと思っております。</p> <p>さてここで加藤先生から、これまでの道頓堀川水辺空間の移り変わりを振り返っていただくとともに今後の姿に触れていただいで、本日ご出席の皆</p>	事務局 河川課 青山	

議事要旨	作成日	担当
	2019 . 3. 25	南海電気鉄道株式会社 島津直生
<p>様や、次期運営事業者の南海電鉄、私ども大阪市に向けたメッセージをいただければというふうに思っております。加藤先生どうぞよろしくお願ひ</p> <p>ちょうど12時で、これで散会がいいんじゃないでしょうかとも思いますけども。</p> <p>最後にメッセージを申したいと思いますけども、冒頭でお話がありましたように、この道頓堀川水辺空間利用検討会を2期7年に渡ってやりました。実は道頓堀川と私の付き合い始めは、それ以前の1985年からの付き合いがありました。当初は、都市における水路空間ということで研究をスタートさせて、最初に国際会議をまずやったのですけども、私、当時に阪大にいましたが、その時にアメリカから来た先生がサンアントニオの事例を紹介されて素晴らしいと思いました。そのサンアントニオというのは、いらなくなった水路を埋めずに復活させて周辺をホテルにして都市の魅力施設に変えていったという事例を紹介されました。当時、大都市の水質悪化ということが問題視されており、いかに再生するかという議論が世界中におこっていました。そこから大阪でも様々な議論が行われ、道頓堀でも200億を使って水門と下水道とリバーウォークが整備されました。</p> <p>2000年代よりコンストラクションの会議をさせていただきました。だが、やはりコンストラクションの後はマネージングだと申し上げていきました。大阪市の担当部署が「コンストラクションだとダメです。」、マネージング部局に変わらなさいよ言ってきました。そういう経緯があって地元の方と2001年に道頓堀を考える会を作りました。地元の方と議論して結構言われたりして楽しい時期を過ごし、今日にいたっているわけです。今度インフラはできているのでマネージングをどうやっていくかと考えるときに先ほどグレーターなんばの軸になっていく道頓堀というイメージをいただきましたけど、まさにその通りだと感じます。</p> <p>私にとって、この30年の間で3つ世間が変わりました。</p> <p>1つは、先ほど申し上げた水路空間というのが都市の中で非常に重要で、魅力向上を発揮するものであるなってきたことです。海外の事例ですとまずチヨンゲチオンという高速道路をとっばらって水路を復活させて多に周辺の不動産価値を上げた事例があります。</p> <p>もう1つは、東京で起こりつつあります。日本橋の高速を地下化し、日本橋の水辺空間を生み出し、インバウンドの魅力にしようという。これも1985年の頃からボストンの事例を見ながら、「ああなったらいいね。」とかいってました。それが実現してきつつあります。</p> <p>3つ目に予想しなかったことはスマホの普及です。これはものすごい変化です。観光客や都市を楽しむ人にとってスマホの普及、情報革命は都市の魅力を変えていっています。大阪の道頓堀が世界の道頓堀になれるのは、スマホのおかげじゃないかと思うくらいに大きな変化だと思います。ということを含めて、今後、南海さんが10年やられる、あるいは地域の地権者が支えて、道頓堀が大阪のブランドのNo.1に築き上げていくということを期待して私の退任の挨拶にかえさせていただきたいと思います。</p> <p>どうもありがとうございました</p> <p>加藤先生、どうもありがとうございました。それではもう一度、加藤先生への大きな拍手をもって長年のご尽力に対する感謝の意にかえさせていただきますたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>検討会の予定内容につきましては以上でございます。本日はお忙しいところ貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございました。今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上で本日の水辺空間利用検討会を終わります。ありがとうございました。</p>		<p>加藤座長</p> <p>事務局 河川課 青山</p>